

イオン交換膜の特殊イオン選択透過性に関する研究（第1報）

ビニールピリジン系陰イオン交換膜内における Cl^- と SO_4^{2-} の選択透過性

小坂勇次郎
江村徳昭

Studies on specific transport through the ion exchange membrane [1]

Competitive electromigration of Cl^- and SO_4^{2-} through the anion exchange membrane prepared from poly-4-vinylpyridine

Yujiro Kosaka
Noriaki Emura

A new type homogeneous anion exchange membrane has been prepared by reaction of poly-4-vinylpyridine and polyepoxide compounds. Relative rates for competitive electromigration of Cl^- and SO_4^{2-} across the membrane in $\text{NaCl}-\text{Na}_2\text{SO}_4$ mixed solutions were studied by use of electrodialysis cell consisting of 7 compartments in the conventional fashion.

Following phenomena were observed; 1) The membrane was specific uptake of Cl^- over SO_4^{2-} in a system which is in equilibrium with solution, and was selectively permeable to Cl^- as opposed to SO_4^{2-} under electric field. 2) This specific permeability to Cl^- was found to decrease as current density increased. 3) The specific permeability to Cl^- showed that it depends upon stirring rate of the solution donating the counter ion to the membrane but independent of stirring rate of the solution receiving the counter ion from the membrane, and with increasing stirring rate, the specific permeability to Cl^- increased. This phenomena is attributable to concentration polarization at interface of the membrane and the solution. 4) The higher pH of external solutions, the greater is the specific permeability to Cl^- .

1. まえがき

我国におけるイオン交換膜の製造研究は海水の電気泳動的濃縮への応用を主対象に進められており、従って、海水中の食塩採取を目的とする限り、 Na^+ および Cl^- 以外の、特に2価イオンの透過ができるだけ小さなしめるようなイオン交換膜が望まれていることは周知のごとくである。

このような目的のために、同符号異種イオン間の特殊選択透過性を有するイオン交換膜を製造する試みは早くから行なわれており、若干の報告もみられるが、その詳細な選択透過機構に関してはいまだ不明な点が多く、平衡時における選択吸着性、すなわち、counter ion と fixed charge との相互作用、あるいは電流密度などの外的条件等の影響するといわれているに過ぎない。

v/o

本報は、ビニールピリジン系陰イオン交換膜を製造し $\text{NaCl}-\text{Na}_2\text{SO}_4$ 混合溶液中における Cl^- と SO_4^{2-} の選択透過性について検討したものである。すなわち、この膜は Cl^- を選択的に透過し、 SO_4^{2-} を透過しがたい性質を有することを確かめるとともに、このような特殊イオン選択透過性が電流密度、外液の pH、外液のカキマゼ状態等によって著しく変化することを確かめたので報告する。

2. 実験法および結果

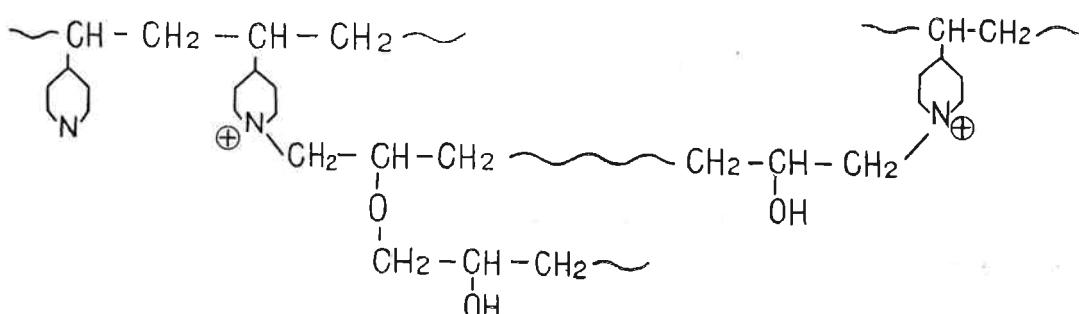
(1) 試料膜の製造

ビニールピリジン系陰イオン交換膜の製造法についてはすでに報告されているが¹⁾、ここで用いた膜は次の条件で製造した。4 ビニールピリジン10部を12.2部

イオン交換膜の特殊イオン選択透過性に関する研究（第1報）

のメチルアルコールに溶解し、開始剤として0.23部の過酸化ベンゾイルを添加して70°Cで7 hr. 溶液重合を行ない4ビニールピリジン重合物を作る。この重合物9部に多価脂肪族アルコール系のエポキシ化合物（Epikote 562）6部とビスフェノール系のエポキシ化合物（Epikote 828）2部を適量のメチルアルコ-

ルに混合溶解して、これにサランスクリーンを浸漬して製膜した。製膜後溶剤を蒸発させるとともに、室温で約5 hr. 硬化反応を行ない、海水中に投じて反応を停止した。この膜の構造は次のとくであると推定される。



なお、この膜の一般的性質についてはすでに報告した²⁾。

(2) 電解実験

図1に実験装置の概略を示した。電槽は、ビニールピリジン系陰イオン交換膜A₁, A₂, A₃およびスチレン系陽イオン交換膜C₁, C₂, C₃により7室に分割され、その有効膜面積はいずれも46.5cm²、各内容積

は100cm³である。このうち選択透過性に関して対象とする膜はA₁およびA₂である。III, IVおよびV室にはカキマゼ機をとりつけた。電源には50V, 10Aセレン整流器を使用し、途中回路に抵抗器、電流計および電量計を挿入した。

まず、各膜を十分 conditioning した後、IおよびII室にはNaCl-Na₂SO₄混合溶液(Na⁺濃度0.5N, SO₄²⁻当量分率0.2), VIおよびVII室には0.5NNaNO₃溶液をそれぞれ電解中ほとんど濃度変化が起らないよう多量に流下させる。III室にはNaCl-Na₂SO₄混合溶液(IおよびII室と同一濃度), IV室には0.4NNaCl溶液, V室には0.5NNaNO₃溶液を一定量入れる。この際各室溶液のpHはいずれも同一になるよう予め調整した。しかる後、所定の電流密度で約2000 coul. 通電後、III, IVおよびV室溶液を抜き出し、容積を測るとともに、Cl⁻濃度をMohr法、SO₄²⁻濃度をEDTA法により求めた。

しかし、III, IVおよびV室の電解前後における各イオン濃度変化並びに全体の物質収支より、A₁膜およびA₂膜を通過したCl⁻およびSO₄²⁻の割合を求めることができる。この際、III室よりIV室に入ったSO₄²⁻はC₂膜を通ってV室に入らない、またIV室よりV室に入ったCl⁻はC₃膜を通ってVI室に損失しないと仮定し、またさらに各膜内に各イオンが蓄積したりまたは排出することがないと仮定した。このようにして得られた実験前後における濃度変化および各膜を通るイオンの輸率 \bar{v} （若干拡散の影響が入っているため真輸率とは異なる。ここではFaraday当りの透過当量数を示す）は一例として次のとくなつた。

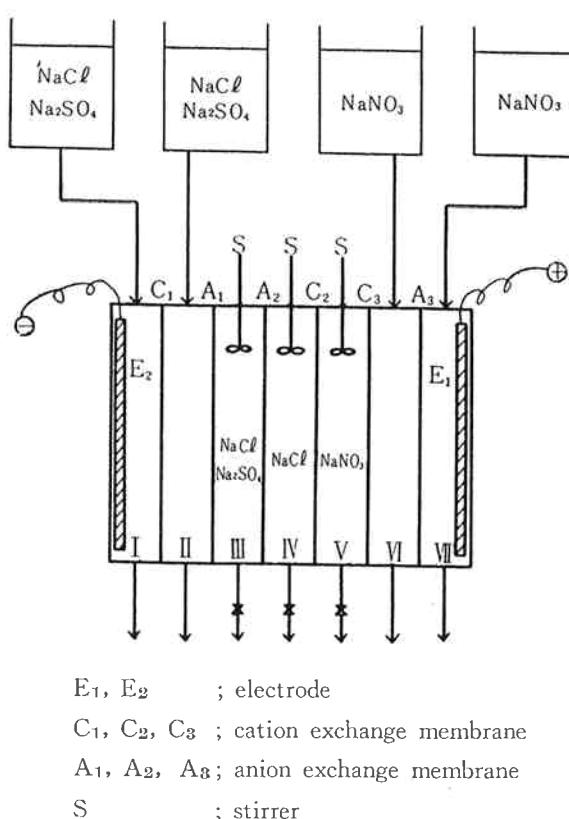


Fig. 1 Schematic representation of apparatus for electrodialysis.

イオン交換膜の特殊イオン選択透過性に関する研究(第1報)

例1 電流密度 2.0Amp./dm²
pH 5.0~6.3
通電量 2165 coulombs
カキマゼ状態

	A ₁	A ₂	C ₂
(II)	(III)	(IV)	(V)
$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.398\text{N}$	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.398\text{N}$	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.412\text{N}$	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0$
$\text{C}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.097\text{N}$	$\text{C}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.097\text{N}$	$\text{C}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0$	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.0001\text{N}$
	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.389\text{N}$	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.600\text{N}$	$v_0 = 100.0\text{c.c.}$
	$\text{C}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.106\text{N}$	$\text{C}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.0068\text{N}$	$v = 100.0\text{c.c.}$
	$v_0 = 100.0\text{cc}$	$v_0 = 100.0\text{c.c.}$	$v = 103.4\text{c.c.}$
	$v = 100.1\text{cc}$		
	$\bar{t}_{\text{Cl}^-} = 0.895$	$\bar{t}_{\text{Cl}^-} = 0.935$	$\bar{t}_{\text{Cl}^-} = 0.005$
	$\bar{t}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.069$	$\bar{t}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.031$	

例2 電流密度 1.5Amp./dm²
pH 5.2~6.4
通電量 2125 coulombs
カキマゼ状態

	A ₁	A ₂	C ₂
(II)	(III)	(IV)	(V)
$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.398\text{N}$	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.398\text{N}$	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.412\text{N}$	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0$
$\text{C}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.098\text{N}$	$\text{C}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.098\text{N}$	$\text{C}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0$	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.0001\text{N}$
	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.392\text{N}$	$\text{C}_{\text{Cl}^-} = 0.596\text{N}$	$v_0 = 100.0\text{c.c.}$
	$\text{C}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.104\text{N}$	$\text{C}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.0053\text{N}$	$v_0 = 100.0\text{c.c.}$
	$v_0 = 100.0\text{c.c.}$	$v_0 = 100.0\text{c.c.}$	$v = 100.1\text{c.c.}$
	$v = 100.0\text{c.c.}$	$v = 103.7\text{c.c.}$	
	$\bar{t}_{\text{Cl}^-} = 0.912$	$\bar{t}_{\text{Cl}^-} = 0.940$	$\bar{t}_{\text{Cl}^-} = 0.005$
	$\bar{t}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.053$	$\bar{t}_{\text{SO}_4^{2-}} = 0.025$	

(ここで C°、および C は実験前、後における濃度、 v_0 および v は実験前、後における容積を示す。)

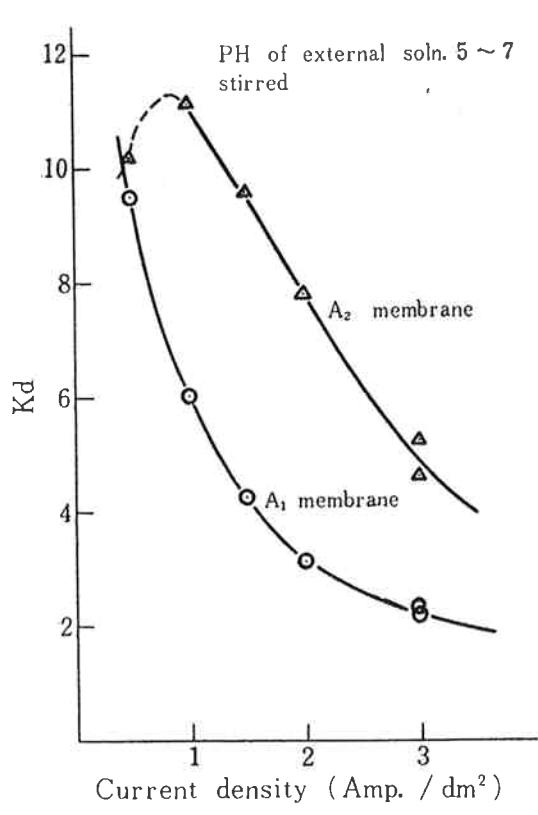


Fig. 2 Variation of Kd with current density.

Table 1 Effects of stirring of external solutions on Kd.

(current density 1.5 Amp./dm², pH of the solutions 5.8~6.2)

condition of stirring	Kd	
	A ₁ membrane	A ₂ membrane
violent stirring	4.3	9.6
moderate stirring	4.1	6.0
unstirred	4.0	3.2
unstirred	4.3	3.2

Table 2 Effects of pH of external solutions on Kd.

(current density 1.5 Amp./dm², stirred)

pH	Kd	
	A ₁ membrane	A ₂ membrane
10.2	4.0	10.3
5.8	4.3	9.6
3.9	2.5	3.6
2.9	2.2	3.2
2.5	2.0	3.1

イオン交換膜の特殊イオン選択透過性に関する研究（第1報）

このような輸率 \bar{t} より選択透過性 K_d を次のように定義して求めた。

$$K_d = \frac{\bar{t}_{Cl^-}}{\bar{t}_{SO_4^{2-}}} / \frac{C_{Cl^-}}{C_{SO_4^{2-}}} \quad (1)$$

ここで C_{Cl^-} および $C_{SO_4^{2-}}$ はそれぞれ膜にイオンを与える側の溶液濃度を示す。

このようにして得られた K_d と電流密度の関係を図2に示す。またカキマゼ速度の影響を表1に、外液のpHの影響を表2に示す。

(3) 選択吸着係数

試料膜を $NaCl \sim Na_2SO_4$ 混合溶液 (Na^+ 濃度 0.5 N, SO_4^{2-} 当量分率 0.2) と十分平衡せしめた後、常法により膜内の Cl^- および SO_4^{2-} 濃度を測定し、次式により選択吸着係数を求めた。

$$K_e = \frac{\bar{C}_{Cl^-}}{\bar{C}_{SO_4^{2-}}} / \frac{C_{Cl^-}}{C_{SO_4^{2-}}} \quad (2)$$

ここで、 \bar{C}_{Cl^-} および $\bar{C}_{SO_4^{2-}}$ はそれぞれの膜内濃度、 C_{Cl^-} および $C_{SO_4^{2-}}$ は外液濃度を示す。結果を表4に示す。

(4) 電気電導度

白金黒電極を有する二室型電槽に試料膜をはさみ、pHの異なる 0.5N $NaCl$ または 0.5N Na_2SO_4 溶液を入れ十分平衡せしめた後、常法により 1000cycle/sec 交流にて、膜および溶液を含めた全抵抗を測定し、溶液の抵抗を差引いて膜の電気抵抗を求めた。結果を図3に示す。また別に co-ion の存在しない状態での膜抵抗の測定を行なった。すなわち、所定の pH に調節した水を用いて Donnan 塩を完全に排除した Cl 型または SO_4 型の試料膜の両面に水銀を満たし、1000 cycle/sec. 交流にて抵抗を求めた。この場合水銀面と膜界面の分極容量が誤差の原因となるが、特に考慮しなかった。結果を表3に示す。

Table 3 Ohmic resistance of the membrane of Cl form or SO_4 form under condition co-ion free.

form	pH	resistance (ohm-cm ²)
Cl	2.7	11.7
Cl	11.0	19.6
SO_4	2.6	27.6
SO_4	11.0	75.1

Table 4 K_e and $K_d(e)$

pH	K_e	$I_{Cl^-}/I_{SO_4^{2-}}$	$K_d(e)$
11	16	3.8	61
2.7	1.3	2.4	3.1

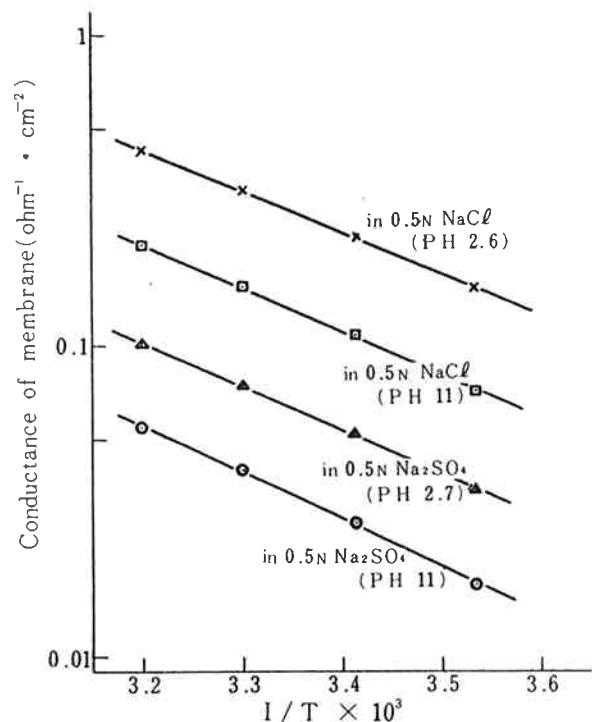


Fig. 3 conductance of the membrane equilibrated with 0.5N $NaCl$ or 0.5N Na_2SO_4

3. 考 察

SO_4^{2-} に比し Cl^- を選択的に透過する膜についてすでに若干報告されているが^③、ここで検討したビニールピリジン系陰イオン交換膜は著しく Cl^- を選択的に透過する。

一般に同符号異種イオン間の選択透過性は電流密度の函数といわれ、電流密度の上昇とともに K_d はそのイオンの自由溶液中の移動速度比に近づく^{④)~⑥)}。図2の結果も電流密度の上昇とともに K_d は小さくなっている、このような傾向を見せていている。このような現象は、水の移動^{⑤)}、Wien 効果^{④)}等の影響ともいわれているが、膜内イオンの分配が電流密度によって変化することに起因する^{⑥)}。また Sollner 等は膜表面の分極現象が非常に影響することを述べている^{⑦)}。

さて一般に電流密度が無限小になったとき、すなわち平衡時における選択透過性 $K_d(e)$ は次式で示すことができる。

$$K_d(e) = \frac{\bar{t}_{Cl^-}/\bar{t}_{SO_4^{2-}}}{\bar{C}_{Cl^-}/\bar{C}_{SO_4^{2-}}} = \frac{\bar{C}_{Cl^-}/\bar{C}_{SO_4^{2-}} \cdot I_{Cl^-}/I_{SO_4^{2-}}}{\bar{C}_{Cl^-}/\bar{C}_{SO_4^{2-}}} \quad (3)$$

ここで I_{Cl^-} および $I_{SO_4^{2-}}$ は混合溶液と平衡した膜内における Cl^- および SO_4^{2-} の易動度を示す。⁽³⁾ 式に(2)式を代入すると

$$K_d(e) = K_e \cdot \bar{C}_{Cl^-}/\bar{C}_{SO_4^{2-}} \quad (4)$$

ここで K_e には実測値をそのまま代入し、また $I_{Cl^-}/I_{SO_4^{2-}}$ は近似的に表3より求めた電導度の比を代入す

ると $K_d(e)$ を求めることができる。結果を表4に示す。

pHが高い場合には $K_d(e)$ は60にも達するが、実際に電気泳動したときの K_d は低電流密度 (0.5Amp./dm²)においても10程度である。この差は前述のごとく、電気泳動による Cl^- の膜内における移動量が膜一溶液界面における交換反応量を上回るため、膜内のイオン組成は平衡時におけるイオン組成を保持し得なくなることで定性的に説明される。

しかし、図2 A₂膜の K_d は低電流密度において $K_d(e)$ の値に近づこうとしないで逆に低下している。このような現象は Sollner らの実験結果⁹⁾にもみられるが、拡散の影響であると推測される。すなわち、A₂膜にイオンを与える側には NaCl～Na₂SO₄ 混合溶液、他方側には NaCl 溶液が入っているため、低電流密度においては、電気的に移動する SO₄²⁻ 量に比べ同じ方向に拡散で移動する SO₄²⁻ の割合が大きくなり、また Cl⁻ については逆の現象がみられるため、見かけ上 K_d が低下することになる。従って前述のごとき K_d の電流密度依存性は膜両側に等濃度、等組成の溶液をおいたときにのみ満足される。

次に膜表面の濃度分極の影響について述べる。図2において、同一組成の膜であるにもかかわらず、A₁膜とA₂膜の K_d 値が相違するのは拡散の影響もさることながら、おもにカキマゼ速度の影響と思われる。ここでは A₁膜にイオンを与える側の溶液は自然流下させているので十分カキマゼされた状態ではないが、A₂膜の方は激しくカキマゼている。また表1においては、A₁膜にイオンを与える側の溶液は自然流下させ、A₂膜のその溶液のカキマゼ速度を変化した結果を示しているが、A₁膜の K_d はほとんど変化しないのに反し、A₂膜のそれは著しく変化している。これは他の条件をほぼ同一にしているため明らかにカキマゼ速度の影響である。すなわち、イオンを膜から受けとる側の溶液のカキマゼ状態はほとんど K_d に影響しないが、イオンを膜に与える側の溶液のカキマゼ速度は著しく K_d を変化させる。陽イオン交換膜系についてこの点を指摘した例もある⁷⁾。

このような現象は定性的に次のように説明できる。一般にイオン交換膜面を電流が通過する際必ず膜表面において濃度分極を生じ、カキマゼの影響を受けない拡散層ができる。イオンを膜に与える側の界面においては、膜に入る Cl⁻ と SO₄²⁻ の比は拡散層内に電気的および拡散によって供給される Cl⁻ と SO₄²⁻ の比より大きいため、拡散層内では Cl⁻ は不足し SO₄²⁻ は過剰となる。したがって、膜表面の交換反応において Ke を一定とすれば C_{Cl-}/C_{SO4^2-} 比を小さくする

傾向をみせ、結局 $\bar{t}_{Cl^-}/\bar{t}_{SO4^2-}$ 比を減少せしめることになる。膜表面に拡散層を通じて拡散により供給するイオン量は拡散層の厚さに比例する。激しくカキマゼした際の拡散層の厚みは 10⁻⁴cm 程度でカキマゼしないときのそれは 10⁻²cm の order といわれ¹⁰⁾ その差は大きく、カキマゼ速度は著しく膜表面へのイオンの供給量すなわち K_d に影響を与える。実験結果もこのことをはっきり示している。このような分極現象は電流密度の上昇とともに著しくなるため、図2の K_d の電流密度依存性の原因にも分極現象が大いに関与していると推測される。

次に表2において外液の pH が著しく K_d に影響を与えている。このような pH の影響は表4の Keにおいて著しく、さらに $K_d(e)$ も大きく変化している。すなわち pH が低下すれば特殊イオン選択透過性がしたいに失なわれることを示している。表2においては pH 5 付近を境にして K_d が急変しているが、この点は既報²⁾で示した滴定曲線の湾曲点とほぼ一致している。すなわち3級アミン基の解離状態がこのような選択透過性に関与していることが推定される。

ここで検討した膜は Cl⁻ を選択的に吸着し、さらに Cl⁻ の易動度は SO₄²⁻ に比べて大きい。また非対立イオンがかなり入った状態で正確に counter ion の mobility を示してはいないが、図3の結果より電導に対する活性化エネルギーは、0.5N NaCl (pH 11) のときを 1.0 とすれば、0.5N NaCl (pH 2.6), 0.5N Na₂SO₄ (pH 11), 0.5N Na₂SO₄ (pH 2.7) ではそれぞれ 0.9, 1.4, 1.0 となった。すなわち SO₄²⁻ が透過しがたい状態では活性化エネルギーが大きいことを示す。これらのことより、SO₄²⁻ は固定電荷との相互作用が大きいために透過しにくいと考えるのは妥当ではない。

Cl⁻ が SO₄²⁻ に比べ選択的に吸着され易い原因または機構に関してはなお不明な点が多く詳細な検討を必要とするが、膜内における Cl⁻ の易動度が SO₄²⁻ のそれに比べ大である原因を次のように推定した。一般にイオン交換膜の network pore は水和イオン半径よりもかなり大きいと考えられているが、実際にはこの pore 内には fixed water が存在し見かけの pore は小さくなる。この膜の含水率は通常の膜と大差はないが、電気渗透量は極度に小さい。このことは mono functional な膜に比べて3級アミン基、アルコール性 OH 基を有するこの膜は fixed water が多く mobile water が少ないことを示す。結局イオン半径の大きい SO₄²⁻ は fixed water の障害によって移動を阻害されるものと思われる。

4. むすび

ビニールピリジン系陰イオン交換膜の $\text{NaCl} \sim \text{Na}_2\text{SO}_4$ 混合溶液中における Cl^- と SO_4^{2-} 間の選択透過性について検討した。その結果次の諸点が明らかになった。

- (1) この膜は Cl^- を選択的に透過し SO_4^{2-} を透過しにくい。
- (2) 膜両側液の濃度および組成が同一の場合、 Cl^- に対する特殊選択透過性は電流密度の上昇とともに低下する。
- (3) Cl^- に対する特殊選択透過性は膜よりイオンを受けとる側の溶液のカキマゼ速度にはほとんど影響されないが、膜にイオンを与える側の溶液のカキマゼ速度に著しく影響され、よくカキマゼした状態では Cl^- をより多く透過する。これはおもに膜表面の分極現象に基づく。
- (4) 外液の pH が低下すると、 Cl^- に対する特殊選択透過性が減少する。

本研究の大要は昭和35年学協会連合秋季研究発表会において講演した。

文 献

- 1) 日本特許 294, 387.
- 小坂、清水：昭和35年秋季学協会連合研究発表会にて講演
- 2) 小坂、江村：東洋曹達研究報告 4, 82 (1960)
- 3) 尾上、水谷、秋山：電化 29, 223 (1961)
- 尾上、水谷、泉：同誌 29, 653 (1961)
- 4) Gregor, Wetstone; Discuss. Farad. Soc. No. 21 162 (1956)
- 5) 織田、村越、齊藤、松田：電化 25, 328 (1957)
- 6) 石橋：工化 61, 798 (1958)
- 7) 尾上、水谷、山根、高崎：電化 29, 187 (1961)
- 8) Peers; J. Appl. Chem. 8 57 (1958)
- 小坂、江村、脇山：東洋曹達研究報告 3, 30 (1959)
- Benedetto, Lightfoot; Ind. Eng. Chem. 50 691 (1958)
- 9) McClintock, Neihof, Sollner; J. Electrochem. Soc. 107 315 (1960)
- 10) Helfferich; Discuss. Farad. Soc. No. 21 91 (1956)